

第 2 1 回総務経済常任委員会会議記録

開 閉 会 日 時	令和 4 年 4 月 1 3 日 (水曜) 午前 9 時 3 0 分 開会	
	休憩 9:57-58 10:24-40 11:03-04 11:21-28 12:19-31	
	午後 1 2 時 5 6 分 閉会	
	休憩時間：0 時間 3 7 分	会議時間：2 時間 4 9 分
会議場所	役場 3 階委員会室<オンライン出席者 (O) >	
出席委員 氏 名	委員長 鈴木 健充	委 員 中村 和宏
	副委員長 中田智恵子	委 員 広瀬重雄 (O)
	委 員 梶澤幸治 (O)	
	委 員 立川 美穂	議 長 早苗 豊
説明員	環境土木課長 橋本直樹	
	同課長補佐 斎藤和也	
参考人		
欠席委員 氏 名	委 員 寺町 平一	
事務局職員	事務局長 安田 敦史	総務係長 佐藤 史彦
『会議に付した事件と会議結果など』		
1 開 会		
<ul style="list-style-type: none"> ・委員長が開会を告げ、当委員会はオンライン会議（議会委員会条例第 1 3 条の 2）である旨を説明し、寺町委員の欠席及び 2 委員（梶沢・広瀬委員）のオンライン出席を報告した後、事務局から本日の委員会の日程を説明する。 		
2 議 件		
(1) 調査事項		
ア 合同納骨塚について	資料 1	
イ 令和 3 年度総務経済常任委員会の抽出事業について	当日資料 2	
ウ 議会ホットボイスについて	資料 3	
エ 3 月定例会議の振り返りについて		
ア 合同納骨塚について 資料 1		
<ul style="list-style-type: none"> ・課長：資料説明<第 15 回委員会（1 月 20 日開催）で説明したアンケートについて、実施結果の報告趣旨)。詳細は担当課長補佐から説明の旨告げる。 ・課長補佐：前回のアンケートは令和元年度。対象は霊園利用者。回答率は 30 数パーセント。今回は、本年 1 月下旬から 2 月上旬の 3 週間がアンケート期間。対象は無作為抽出 700 人のほか、障がい者の関連団体 41 人、LINE 公式アカウント登録者。回答 		

率は40パーセント台と上昇した。

- ・委員長：質疑はないか？
- ・立川委員：現時点で町内の寺社について、（合同納骨塚の設置の）動静は把握しているか？
- ・課長：今回は寺社の意向は確認していない。参考情報として、前回の聞き取りでは、13者中2団体が賛成、7者が反対、4者がどちらともいえないという状況であった。今後の実態把握は、必要に応じて実施すべきと考えている。
- ・立川委員：町として、この事業の実施可否を判断するスケジュールのイメージは？
- ・課長：管内自治体でも動きが出てきている状況であり、町民の意向を踏まえながら、アンケート実施時期を含めて模索していきたい。
- ・梶澤委員：アンケート結果の分析で、5年以上10年以内のニーズの値は？
- ・課長補佐：10年をボーダーとした分析としたため、細かな設定の数値での分析はしていない。
- ・梶澤委員：アンケート結果からは、事業実施の緊急性を裏付けするほど高い要望とは読み取れないが、町はこの事業に対する住民ニーズの真意をどのように捉えているのか？
- ・課長補佐：ニーズの割合のみを事業実施の判断とするのではなく、事業の重要度を鑑みて、判断していきたい。
- ・梶澤委員：町民の意思を的確に捉えた事業実施の見極めを期待するが、改めていかがか？
- ・課長補佐：御意見を踏まえて、継続的に実態把握をしながら、内部で検討していきたい。
- ・中田委員：樹木葬の希望数は？
- ・課長補佐：全体の割合としては、整理していない。
- ・中田委員：少数意見とはいえ、多様な意見として反映に努めるべきと考えるが、町の見解はいかがか？
- ・課長補佐：道内で実施事例もあることから、御意見を踏まえて、自由意見の少数意見についても反映すべきものは見極めていきたい。
- ・委員長：他にないか？
- ・（質疑なし）
- ・委員長：以上で調査事項「ア」を終了する。

イ 令和3年度総務経済常任委員会の抽出事業について 当日資料2

- ・副委員長：当委員会の抽出事業について、去る4月4日のミーティングを経て、正副で事業調査報告（資料2-1）を整理した。各委員からの意見を求めたい。
- ・委員長：意見・質疑はないか？
- ・立川委員：それぞれの意見交換を経て、それぞれに、また全体として、何を課題として、今後どのように取り組むのかということが、簡潔明瞭に整理すべきと考える。そのことを意見交換会の相手にお返しすることが委員会の役割と考える。ついては、その整理に向けては委員間討議が必要である。

- ・梶澤委員：「8 総括」の中で、一部表記に精査を要すると考える。例えば、（9ページの5行目で）「テナントは…改革を必要とせず」というのは、委員全員の共通認識とは言えない思いもあり、（9ページの下から3行目の）「押し寄せる」を「訪れる・利用できる」のような表現が適切と考える。
- ・中村委員：お示しいただいた総括は、今後の委員会の取組みにつなげていくものであり、この整理で良いと考える。
- ・広瀬委員：まとめの方向性は適切と考える。さらに、細部にわたる詰めとして、課題は、改革自体か、説明不足か、相互理解が乏しかったのかなど、今一度、重要なキーワードを明確に記載しておく、このまとめの本旨が克明になると考える。
- ・立川委員：この総括は、1年の委員会活動の集大成でもあり、委員個々の思いはそれぞれに理解しているものの、文字として共通言語にしてまとめるには、ここで、改めて一定時間を設けて協議・共有してはいかがか？
- ・広瀬委員：先ほど各委員から指摘のあった表現の見直しを行い、改めて委員会の自由討議をせずに、まとめを完成させることで良いと考える。
- ・立川委員：総括の中で、謝意や敬意の文章は最小限とし、課題と見解を簡潔に示すべきと考える。
- ・梶澤委員：ただいま調査している事業報告書のみを見ると、立川委員の意見のとおり、課題と今後の取組みは明確にならないが、連動する政策課題評価（資料2-2）で明確にするのであれば、トータル的な整理ができると考えるがいかがか？
- ・委員長：御意見のとおり、（事業調査報告→政策課題評価→進捗工程表の）連動性を前提に整理していくものである。
- ・委員長：他にないか？
- ・（意見・質疑なし）
- ・委員長：各委員の意見を踏まえて、報告書を修正し確定したい。なお、細部にわたる字句については正副一任とさせていただきたい。異議ないか？
- ・立川委員：次の調査事項である「政策課題評価（資料2-2）」の進捗工程表に記載した「課題」を「資料2-1」の「総括」にそのまま記載すると明確になると考える。また、「資料2-1」の9ページの上から5行目については「改革を必要とせず」ではなく「改革に戸惑いを感じている」などの表現が適切と考える。
- ・委員長：御意見を参考にし、正副に一任いただき修正し決定したい。
- ・（異議なし）
- ・委員長：次に、政策課題評価（資料2-2）について意見・質疑はないか？
- ・立川委員：今年度の評価として「概ね達成」で了とする。ただし、次年度の政策課題として継続するか否かは別途協議を要すると考える。
- ・梶澤委員：「概ね達成」と評価する。また、次年度に向けて継続すべき事項と考える。
- ・委員長：現地調査からスタートし、当初予定していなかった「町民等との意見交換」も実施したことから、「概ね達成」として整理したい。異議ないか？
- ・（異議なし）
- ・委員長：次年度に向けた取組みについては、「継続」とすることに異議ないか？
- ・中村委員：異議ない。事業報告を基にして、次年度も取り組むことで良い。

- ・委員長：委員からの意見に基づき、当初案では「備考」に「令和4年度については、適宜調査を行い」を「政策課題として調査を行い」に改めて決定する。異議ないか？
- ・（異議なし）
- ・委員長：次に「当日資料2」として、「町民との意見交換会のまとめ（以下「まとめ」という。）」を示した。前年度の体裁から変更があるが意見・質疑はないか？
- ・梶澤委員：この「まとめ」の取扱いはどのようになるのか？
- ・委員長：意見交換会の対象（PTA）に送付し、併せて、「総括報告書」としてまとめて公表していきたい。
- ・梶澤委員：「総括報告書」には、このほかに「団体との意見交換会」や「高校との意見交換会や連携事業」も記載されることになる。この「まとめ」と同様の体裁で、他の事業も記載するのか？意見交換会全体を総括する報告書について、今年度の体裁は議運内で協議・議論はなされているのか？
- ・委員長：各意見交換会のまとめの体裁に若干の差異はあるが、これまで同様にすべての意見交換会をまとめることに変更はないものである。
- ・立川委員：「当日資料2」の基本となる前回委員会における資料（4月5日議会運営委員会資料「資料3-1」）を参照しながら議論をしたい。前回委員会で議論した資料から「当日資料2」に体裁が変化したことについて、委員会内議論が不足していたと感じる。正副一任とした範囲を超えている印象があるがいかがか？
- ・委員長：町民（PTA）との意見交換会における意見を踏まえて、これまでの調査事項の結果も含めて総合的に整理したものである。
- ・立川委員：ニュアンスは理解する。しかしながら、本来は委員会内でしっかり協議すべきと強く違和感を持つ。この後、各委員の了解が得られるなら異議はないが、その際も、この「まとめ」を前段で協議した「進捗工程表」の課題に明記すべきと考える。
- ・委員長：約10か月をかけて調査してきた委員会の成果を、正副一任と決定した範疇でまとめてきた思いであることを理解いただきたい。
- ・立川委員：全委員の討議が必須かつ最重要と考えるので、特に「まとめ」の「2 経営状況の公表等について」は、この場で改めて共通認識を図りたい。
- ・梶澤委員：「まとめ」については、改めて委員会内自由討議を経て、確定させてはいかがか？個人的には、この体裁は総括報告書に記載するものではなく、「事業調査報告」の総括に融合させるのが適切であり、総括報告書には従来の体裁がベターだと考える。
- ・広瀬委員：「まとめ」の論点は整理されている。自由討議は十分尽くされている。あとは、総括報告書に整理する体裁をどうするかという点に尽きる。再度、議会運営委員会で総括報告書の体裁を議論すべきのみである。
- ・中田委員：各委員の御意見はもっともと考える。今回の御意見を踏まえて、正副で町民の皆さんにわかりやすいまとめに再整理し、何らかの手段で委員会内共有を図り、整理を完結させることとしたい。
- ・議長：意見交換会の総括報告書をどうするかということが議論の対象となっている。これまでと改め、議会はいいただいた意見を受けて、どのように行動するかという視点でステップアップし整理された。については、この「まとめ」の合意形成は、スケジ

ルールありきではなく、しっかりとしたプロセスを経て成果品として完成させていたいただきたい。

- ・委員長：「まとめ」を改めて正副で修正し、何らかの方法で協議・共有したい。
- ・立川委員：忌憚のない意見を交わせる場面を設けるべきである。「事業調査報告書」、「政策課題評価」、「町民との意見交換会のまとめ」は連動しているものなので、共通認識を図りたいと考える。
- ・中田委員：今回の「まとめ」は、これまでのいわゆる一問一答形式から進化させ、議会の政策形成サイクルを意識したものを目指して、正副一任の権限内と解釈の上、試行錯誤した成果であることは理解いただきたい。
- ・広瀬委員：総括報告書は、町民にわかる体裁にすることが肝要である。議会内部が理解しているだけでは意味がない。この「まとめ」は、委員会内議論は尽くしているので、改めて討議する余地はない。それぞれの評価やまとめの趣旨が、町民にわかりやすく伝わることを再確認すべきである。
- ・梶澤委員：重要な総括なので、委員は集まるべきである。
- ・立川委員：オンラインでも良いので、合意形成を図る場を設けるべきである。
- ・委員長：まとめについて、改めて、協議・議論することとしたい。日程は正副に一任いただきたい。異議ないか？
- ・（異議なし）
- ・以上で調査事項「イ」を終了する。

ウ 議会ホットボイスについて 資料3

- ・総務係長：4月4日付で議会ホットボイスを受理した。「議会ホットボイス取扱基準」に基づき、去る4月5日の議会運営委員会で取扱いを協議した結果、総務経済常任委員会所管事項に係る内容のため、当委員会で回答案を整理することになり、案を作成したので協議したい。意見はないか？
- ・立川委員：2点伺う。1点目の会議録は、先方に送付済みか？2点目は総括報告書に個別の意見交換会の会議録は記載されるのかどうか？
- ・総務係長：1点目は先方からの要請に基づく意見交換会のため、これまでの経緯を踏まえると、議会から申し入れた団体との意見交換会以外は会議録は送付していない。2点目は、議運で決定すべきことなので現時点で言及できない。
- ・立川委員：1点目は、意見交換会の要請主体がどこにあらうとも、会議録は送付すべきと考える。2点目は、総括報告書の掲載体裁が決まらないうちに、ホットボイスの回答にその旨を記載するのは慎重にすべきと考える。
- ・中村委員：意見交換会の会議録は、すべて総括報告書に記載すると考えている。
- ・立川委員：スキースクールとの意見交換会概要が、ホームページで公表されるのであれば、この回答に異論はない。
- ・委員長：他に意見はないか？
- ・（意見なし）
- ・委員長：提案内容で決定とし、調査事項「ウ」を終了する。

エ 3月定例会議の振り返りについて

- ・委員長：3月定例会議の振り返りはなかったもので、調査は割愛する。異議ないか？
- ・(異議なし)

3 その他

(1) 次回委員会の開催日程について

正副一任

(2) その他

- ・委員長：「芽室まちなか応援隊」との意見交換会について、報告書を整理した。御意見を踏まえて先方に送付したい。
- ・梶澤委員：この意見交換会の結果は、総括報告書に記録される認識で良いか？
- ・委員長：お見込みのとおりである。他に各委員から、その他はないか？
- ・(なし)
- ・委員長：議長からないか？
- ・(なし)
- ・委員長：事務局からないか？
- ・総務係長：先ほどのホットボイスについて、確認させていただきたい。総括報告書の扱いについて、議運内で体裁の見直しが議論されている。仮に、スキースクールの意見交換会の要旨が記載されない場合は、実際の意見交換会の要旨を回答に付記することですとしてよろしいか？
- ・立川委員：了である。
- ・委員長：以上をもって、総務経済常任委員会を終了する。

傍聴者数	一般者	0名	報道関係者	1名	議員	0名	合計	1名
------	-----	----	-------	----	----	----	----	----

令和4年4月13日

総務経済常任委員会委員長 鈴木健充